

産業機械を支えてきた 環境技術“に誇りあり”

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット



肉盛溶接は機械部品の寿命延長や資源の有効活用につながる技術

業務内容
肉盛溶接、再生・保守で
新品を超える機能付加も

「杉本工業」の展開する肉盛溶接・溶射は、駆動部品などの表面で負荷の多い部分などを対象に、用途に応じた金属を肉付けして部分的に補強することで、摩耗や腐食に対して耐久性を持たせ、全体の強度を確保する技術。希少金属で作った部品に施せば、使用する資源量の低減にもつながる。機械部品の寿命延長や資源の有効活用に効果の高い技術だ。また、再生・保守していくことで新品を超える機能を付加することもできる。杉本耐肝社長は「貴重な資源の利用を最小化できる有意な仕事。広い意味で環境技術とも言える」と話す。

強み
原発・防衛の両分野で
メーカーからの評価実績

肉盛溶接や溶射を施す対象の1つは、自動車部品やタイヤ、建材に使う樹脂押し出し成形機のシリンダーやスクリーン。長年、鉄鋼、化学、ゴムの各分野で製造工程を支えてきた実績がある。継承してきた特殊技術前後の工程を任せる協力会社との信頼関係が強みだ。原子力プラントの黎明期には、PWR（加圧水型原子炉）でメーカーの認定工場（ステライト溶接肉盛）として仕事の一翼を担ってきた。

また防衛関連でも、メーカーから銅合金溶接肉盛の認定工場として指定を受けている。高い技術が求められ、厳格な品質管理が要求される両分野でも実績を残している。

一貫体制
一貫体制を志向
旋盤加工に事業領域拡大、

新たに機械を導入してオペレーターを雇い、旋盤加工の内製に取り組みだした。

これまでの肉盛溶接や溶射の工程だけでなく、前後の工程へと事業領域を広げ、社内一貫体制の確立を志向しているところだ。「リードタイムの短縮に効果が高い」と杉本社長は狙いを示す。加工業者も少なくなっており、加工委託では融通も利きにくくなったのが背景にある。

一方で仕事の幅を広げるチャンスでもある。杉本社長は「これまで取引のなかった業界、企業にも積極的に営業したい」と意欲を見せる。軌道に乗れば、他工程についても内製を検討していくという。

今後の展望
自動化に挑戦、これからも
技術で産業に貢献を

これまで難しかった自動化技術の確立に挑戦している。内径に対して肉盛溶接が容易にできる「内径溶接装置」を開発した。また平成28年春には外径溶接についても半自動溶接機を完成した。溶接は作業の多くを職人の技術に頼らざるを得ないのが現状。強みである反面、高齢化や若手の人手不足など、今後対処すべき課題も見えている。

後進の育成に取り組み一方で、品質安定が容易となる自動化も視野に入れるのは必至。「技術が人を育て、人が技術を生む」と杉本社長は強調する。これまでに培った技術を元に、さらなる進化を目指す。



スクリューなど
大物への施工も得意



先代が製作した金属製の「不老松」

当社の歴史



創業から60年超。当初はアーク溶接主体でしたが、40年ほど前に特殊溶接技術中心へ転換。鉄鋼・化学・ゴムの各産業に技術で貢献してきました。技術者だった先代の杉本保は、自らの溶接技術を芸術的なものとしてとらえ、さまざまなアイデアを磨いてきました。その挑戦のDNAは今も根付いています。

代表取締役 **杉本 耐肝**さん

<http://www1.odn.ne.jp/~aas09050/>

主な事業内容

ハードフェイシング（溶射）に関するエンジニアリングと施工

主な取引先（納入先）

日本ニューマチック工業（株）、
積水化学工業（株）グループ、
住友ゴム工業（株）グループ

- 住所 〒574-0044
大東市
諸福3-12-17
- TEL 072-871-2761
- FAX 072-873-5945
- 創業 昭和27年2月
- 設立 昭和35年3月
- 資本金 1,000万円
- 従業員 15名